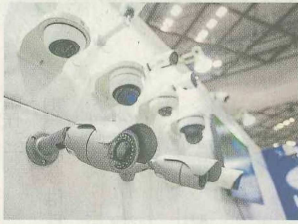


テーマは広く、より深く



ネットワーク対応の監視カメラや映像管理のクラウドサービスを展示

第30回 セキュリティ・安全管理総合展

SECURITY SHOW 2022

など警備業関係者をはじめ、セキュリティ機器メーカー、一般企業の施設管理者、防災管理者、警察・消防・防衛など公共機関と幅広い。

厚生労働省による職業安定所の求人から算出した「保安の職業」の有効求人倍率は、2021年12月時点で6.35倍。全職種で1.18倍と比べると5倍超となり、警備業の深刻な人手不足を表している。今回で30回目を迎える「SECURITY SHOW」には、警備員不足の対策を支援するAIを搭載したセキュリティ機器、警備ロボットなど最先端の技術が集まる。

来場者は警備会社

最新技術で効率化

特集



「人手不足のセキュリティ業界。その対策は？」——3月1日から4日まで東京ビッグサイトで開催されるセキュリティ展示会「SECURITY SHOW 2022」の大きなテーマだ。それは警備業が安全を確保しながら省人化・効率化を目指す「ICT・テクノロジー活用」の取り組みにもつながる。展示予定の最新技術の中から、注目ポイントをまとめた。

【瀬戸雅彦】

来場者が会場に足を運ぶ「リアル展示会」のほか、2月15日から3月11日の期間には「オンライン展示会」も開催される。会場に来られない人や遠方の人を対象にしたもので、リアル展の事前登録でオンライン展にも参加が可能だ。出展者は製品やサービスの説明や画像を動画も交えて掲載する。リアル展開催中はセミナーのライブ配信があり、出展者とのメッセージ交換などコミュニケーションをとりやすい。会場は展示内容で大きく3ゾーンに分かれる。総合的なセキュリティ機器・システムを紹介する「総合セキュリティゾーン」、ネットワークに対応した監視カメラなどのセキュリティ機器などの先端技術を紹介する「ネットワークカメラ&映像関連ゾーン」、オフィスや商業施設向けの災害対策製品を展示する「災害対策ゾーン」の3つだ。

「警備員不足」対策を支援

会場内の特設会場では、セキ

セキュリティに関する各分野の専門家が講師を務める16のセミナーが開催される。日本万引防止システム協会（JEAS・東京都新宿区、稲本義範会長）は3月3日11時30分から「AIカメラの最新導入事例&個人情報保護の安全対策」の演題でセミナーを行う。アリスアリス（東京都港区、山内三郎社長）の不審動作検知、AWL（アウル・東京都千代田区、北

出奈治社長）のAI映像分析のマーケティング利用などの事例を紹介する。セミナー参加者には、JEASが製作した冊子が配布される。万引対策で監視カメラを設置する際に重要となる改正個人情報保護法の4月1日施行予定に合わせて改定した「監視カメラ・画像認識システムの安全利用のすすめ」「顔画像を利用した来店客検知システム」の2冊子だ。

総合展

SECURITY SHOW 2022

東京ビッグサイト 東展示棟

経済新聞社 主催、全国商工会連合会、

ご来場にはウェブサイトから事前登録が必要です(事前登録のない場合、当日入場料¥3,000)。

事前登録で入場無料



NIKKEI MESSE logo and a stylized graphic with the word 'HOPE' and a red and white checkered pattern.